感染症発生動向調査
2020年第43週
（10月19日～10月25日）

京都市感染症週報

京都市感染症情報センター
（ 京都市衛生環境研究所 ）

http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000175159.html

◆ 今週のコメント

・ **新型コロナウイルス感染症**の報告が35例（男性17例（10歳代2例，20歳代3例，30歳代1例，50歳代5例，60歳代2例，70歳代4例），女性16例（10歳代1例，20歳代7例，30歳代1例，40歳代1例，50歳代1例，60歳代2例，　70歳代2例，80歳代1例），未就学児2例（年齢・性別非公開））あり，累積報告数は1,406例となりました。
本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
〇新型コロナウイルス感染症　最新の動向
https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html

・ **細菌性赤痢**の報告が1例（40歳代男性）ありました。感染経路は不明です。本年初めての報告となっています。

・ **腸管出血性大腸菌感染症**の報告が1例（20歳代男性）あり，症状は腹痛，水様性下痢です。本年の累積報告数は17例となりました。
発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については，下記URLを御参照ください。
〇腸管出血性大腸菌感染症発生状況（衛生環境研究所ホームページ）
http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html

・ **アメーバ赤痢**（腸管アメーバ症）の報告が1例（50歳代男性）ありました。感染地域は国内で，感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は6例となりました。

・ **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**の報告が3例（70歳代男性1例，70歳代女性1例，80歳代女性1例）（第42週追加報告分含む）ありました。本年の累積報告数は30例となりました。

・ **クロイツフェルト・ヤコブ病**の報告が1例（70歳代男性）ありました。症状は進行性認知症，ミオクローヌス，無動性無言状態等です。本年の累積報告数は3例となりました。

・ **梅毒**の報告が1例（20歳代女性）あり，症状は初期硬結です。感染地域は国内，感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は51例となりました。

・ **インフルエンザ**は，小児科定点の医療機関から1例の報告がありました。現状では京都市で流行の兆しは見られませんが，流行に備えて予防を心がけましょう。予防策としては，手洗い，うがいなどの一般的な衛生行動が重要です。また，ワクチン接種も一定の予防効果があります。接種の詳細はかかりつけの医療機関に御相談ください。

◆ 今週のトピックス：＜細菌性赤痢＞

2020年第43週，京都市で本年初めてとなる細菌性赤痢の報告がありました。本市の年間報告数の推移を見ると，2000年には28例の報告がありましたが，それ以後は年々減少しており，06年以降は4例以下で推移しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

・ **二類：結核　6例（肺結核 2例，その他結核　2例，潜在性結核感染者 2例）うち喀痰塗抹陽性なし**
【1月以降の累積報告数 215例（肺結核 97例，その他結核 45例，潜在性結核感染者 73例）うち喀痰塗抹陽性 45例】
・ **指定感染症：新型コロナウイルス感染症 35例**【1月以降の累積報告数 1,406例】
・ **三類：細菌性赤痢 1例**【1月以降の累積報告数 1例】
・ **三類：腸管出血性大腸菌感染症 1例**【1月以降の累積報告数 17例】
・ **五類：アメーバ赤痢 1例**【1月以降の累積報告数 6例】
・ **五類：カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 3例**【1月以降の累積報告数 30例】
・ **五類：クロイツフェルト・ヤコブ病 1例**【1月以降の累積報告数 3例】
・ **五類：梅毒 1例**【1月以降の累積報告数 51例】

定点把握の主な感染症

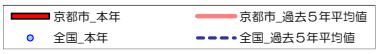
（市内定点数　インフルエンザ定点69，小児科定点43，眼科定点10，基幹定点1）

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	インフルエンザ	0．01	1
小児科	①　感染性胃腸炎	0．98	42
（降順5位まで）	②　A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0．60	26
	③　突発性発しん	0．33	14
	④　咽頭結膜熱	0．14	6
	⑤　水痘	0．09	4
	⑤　ヘルパンギーナ	0．09	4
眼科	流行性角結膜炎	0．10	1

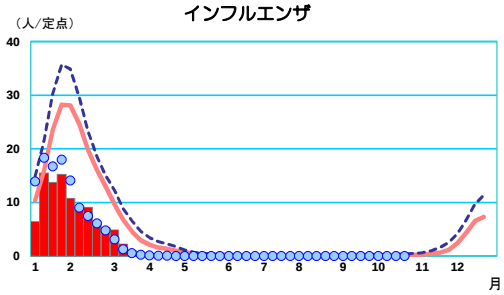
【次ページ以降の主な内容】
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス：＜細菌性赤痢＞
付表（疾病，行政区別報告数 / 年齢階級，疾病別報告数 / 週，疾病別報告数）

（ 注 ）京都市のデータは，2020年10月28日現在の報告数で，全国の還元データと若干異なる場合があります。
また，本情報での患者数は，届出医療機関所在地での集計で，患者の住所を示すものではありません。
※ 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

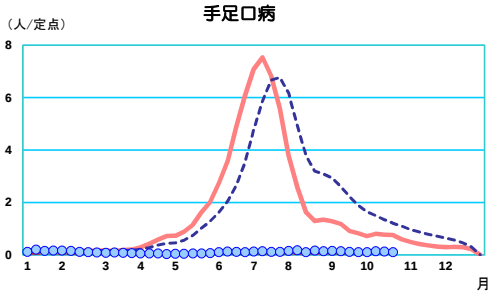
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2020年）



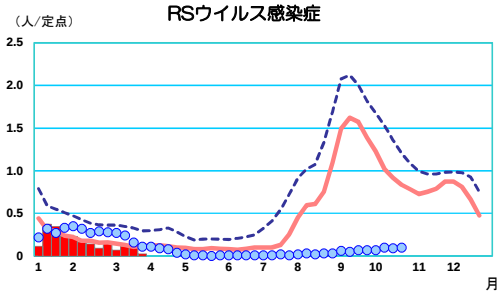
インフルエンザ



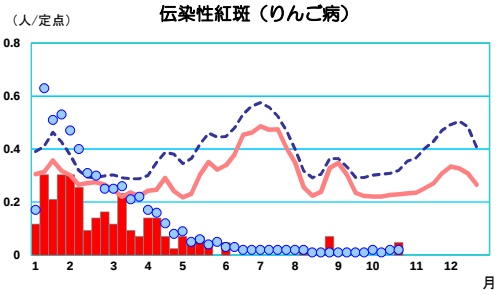
手足口病



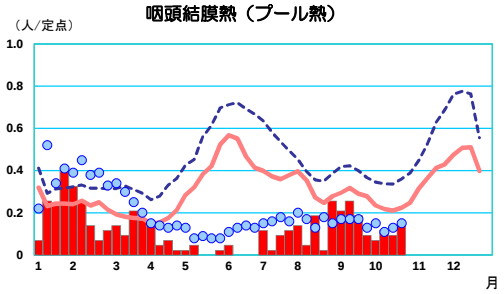
RSウイルス感染症



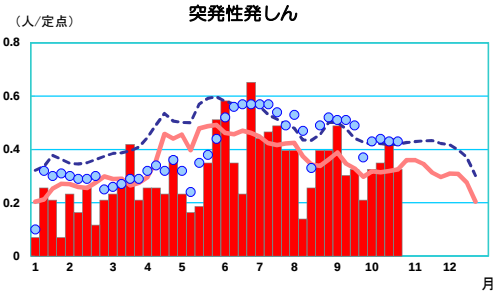
伝染性紅斑（りんご病）



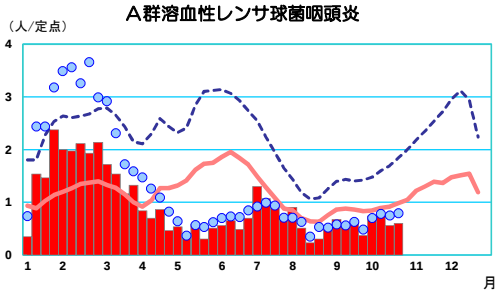
咽頭結膜熱（プール熱）



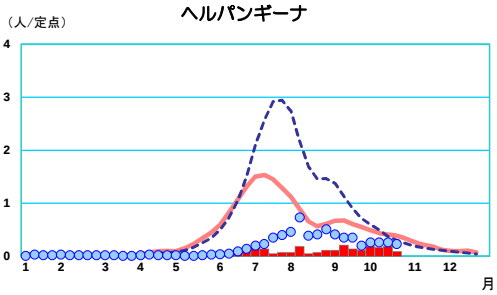
突発性発しん



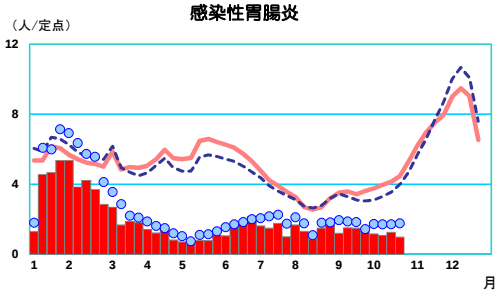
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



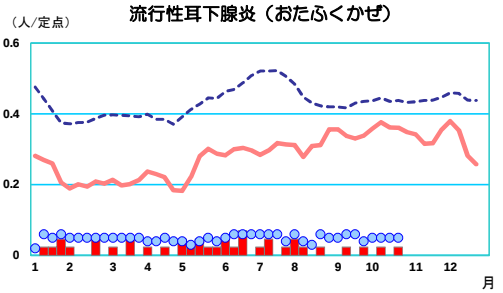
ヘルパンギーナ



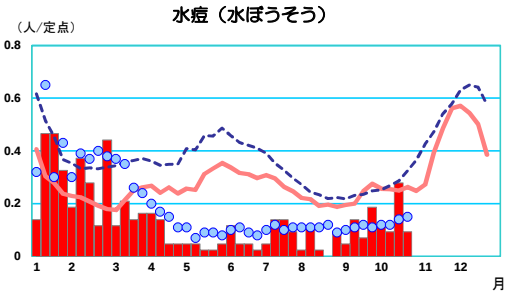
感染性胃腸炎



流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）



水痘（水ぼうそう）



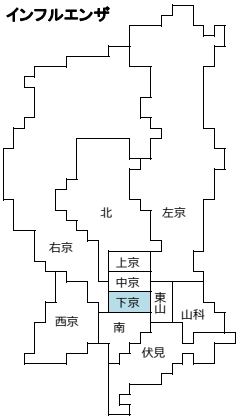
インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図　【２０２０年 第 43 週】

- 発生なし
- 発生あり
- 注意報
- 警報

（注意報及び警報の基準値は感染症右側に表示（「-」は設定なし））

※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがいまして，定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や「規模の大小の影響を受ける場合がありますので，ご注意ください。

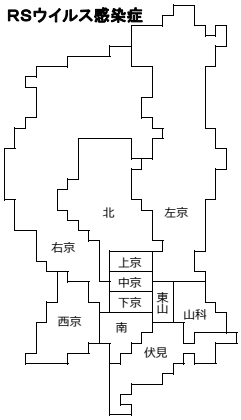
インフルエンザ



警報開始 30
警報終息 10
注意報 10

京都市 0.01	
北	0
上京	0
左京	0
中京	0
東山	0
山科	0
下京	0.33
南	0
右京	0
伏見	0
西京	0

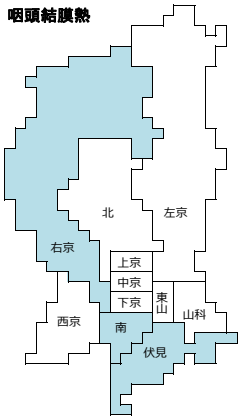
RSウイルス感染症



警報開始 －
警報終息 －
注意報 －

京都市 0.00	
北	0
上京	0
左京	0
中京	0
東山	0
山科	0
下京	0
南	0
右京	0
伏見	0
西京	0

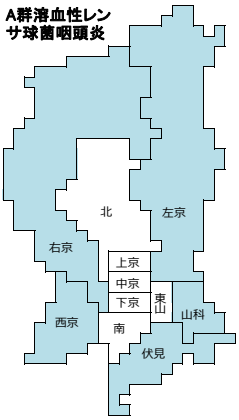
咽頭結膜熱



警報開始 3
警報終息 1
注意報 －

京都市 0.14	
北	0
上京	0
左京	0
中京	0
東山	0
山科	0
下京	0
南	0.33
右京	0.80
伏見	0.14
西京	0

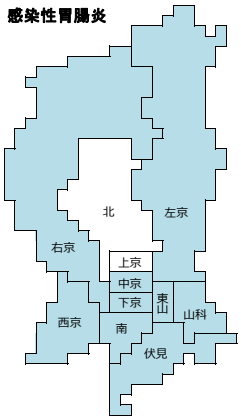
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



警報開始 8
警報終息 4
注意報 －

京都市 0.60	
北	0
上京	0
左京	0.25
中京	0
東山	0
山科	1.60
下京	0
南	0
右京	2.40
伏見	0.57
西京	0.20

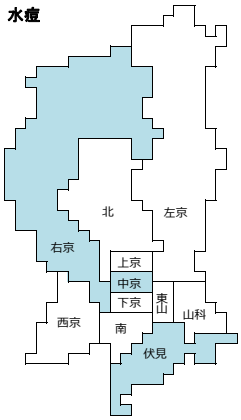
感染性胃腸炎



警報開始 20
警報終息 12
注意報 －

京都市 0.98	
北	0
上京	0
左京	0.25
中京	0.67
東山	2.00
山科	0.80
下京	0.50
南	2.33
右京	0.60
伏見	1.29
西京	2.20

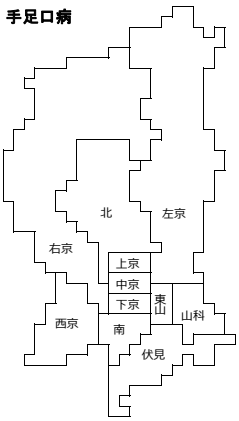
水痘



警報開始 2
警報終息 1
注意報 1

京都市 0.09	
北	0
上京	0
左京	0
中京	0.33
東山	0
山科	0
下京	0
南	0
右京	0.20
伏見	0.29
西京	0

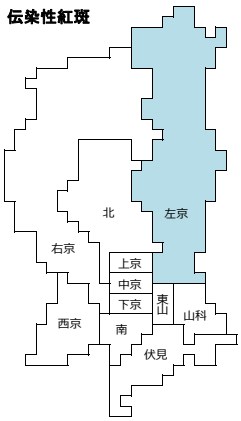
手足口病



警報開始 5
警報終息 2
注意報 －

京都市 0.00	
北	0
上京	0
左京	0
中京	0
東山	0
山科	0
下京	0
南	0
右京	0
伏見	0
西京	0

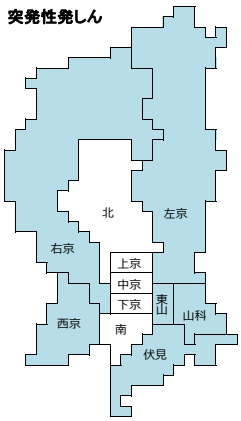
伝染性紅斑



警報開始 2
警報終息 1
注意報 －

京都市 0.05	
北	0
上京	0
左京	0.50
中京	0
東山	0
山科	0
下京	0
南	0
右京	0
伏見	0
西京	0

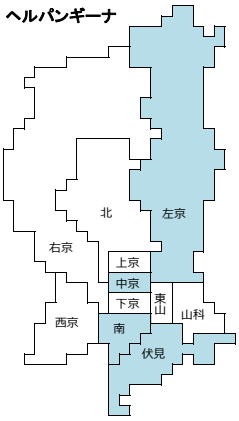
突発性発しん



警報開始 －
警報終息 －
注意報 －

京都市 0.33	
北	0
上京	0
左京	0.75
中京	0
東山	0.50
山科	0.20
下京	0
南	0
右京	0.20
伏見	0.57
西京	0.80

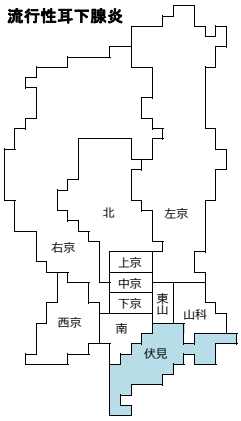
ヘルパンギーナ



警報開始 6
警報終息 2
注意報 －

京都市 0.09	
北	0
上京	0
左京	0.25
中京	0.33
東山	0
山科	0
下京	0
南	0.33
右京	0
伏見	0.14
西京	0

流行性耳下腺炎



警報開始 6
警報終息 2
注意報 3

京都市 0.02	
北	0
上京	0
左京	0
中京	0
東山	0
山科	0
下京	0
南	0
右京	0
伏見	0.14
西京	0

第43週（10月19日～10月25日） トピックス：＜細菌性赤痢＞

2020年第43週，京都市で本年初めてとなる細菌性赤痢の報告がありました。本市の年間報告数の推移を見ると，2000年には28例の報告がありましたが，それ以後は年々減少しており，06年以降は4例以下で推移しています。日本では戦後直後に度々集団発生が起こり，年間10万人以上の患者と2万人近い死者が発生していましたが，近年では上下水道の配備等の衛生状態の改善により激減しています。本市と全国の人口10万人当たりの報告数で比較すると，京都市では05年まで全国より高い割合で発生していましたが，06年以後は全国と同様の水準まで低下しています（図1）。

細菌性赤痢の原因は，赤痢菌（*Shigella* 属菌）です。赤痢は「血便を伴う下痢」のことであり，赤痢菌は腸管の上皮細胞に侵入して細胞を破壊し，出血させることで赤痢を起こします（図2）。赤痢症状を引き起こす病原体には細菌である赤痢菌の他，寄生虫である赤痢アメーバも知られており，赤痢アメーバによるものはアメーバ赤痢と呼ばれています。

赤痢菌は腸内細菌科に属するグラム陰性通性嫌気性桿菌で，鞭毛がないため運動性を持ちません。赤痢菌はA群（志賀赤痢菌，*S. dysenteriae*），B群（フレキシネル菌，*S. flexneri*），C群（ボイド菌，*S. boydii*），D群（ソンネ菌，*S. sonnei*）に分けられ，病原性はA群が最も強く，B群とC群は中程度，D群は比較的弱いとされています。かつて日本で流行していた頃はA群赤痢菌が主流でしたが，衛生状況が改善した近年は，症状が弱く発見が難しいD群赤痢菌が原因の70～80％を占めています。本市の過去14年間の報告でも同様に，D群赤痢菌が原因の過半数を占めていますが，B群赤痢菌も比較的多くみられます（図3）。

細菌性赤痢は，経口的に感染します。患者や保菌者の便には大量の赤痢菌が含まれており，それが手指や食品，飲水等を汚染し，口から入って感染します。河川や井戸水を汚染すると大規模な集団発生を起こす他，感染に必要な菌数は10～100個と極めて少ないため，患者の世話等をして手についた赤痢菌が口に入って感染することがあり，家族等に感染が広がりやすいことも特徴のひとつです。現在の日本では流行していないため，アジアを中心とした海外で感染し，全国では帰国後に発症する症例が過半数を占めています。本市でも約7割はアジアからの輸入事例であり，国内発生例5例のうち3例は海外渡航者又は患者と接触して発症しています（図4）。

赤痢菌に感染すると，通常1～3日で発症し，倦怠感や悪寒を伴う急激な発熱や激しい下痢を起こします。A群またはB群赤痢菌では典型的なしぶり腹（便意がなくならず何度もトイレに行くこと）や膿粘血便（イチゴゼリー状の血便）がみられますが，近年多いD群赤痢菌では軽い下痢や無症状の場合も多くみられます。

細菌性赤痢は，基本的に人を発生源とする感染症なので，手洗いや消毒等，一般的な衛生管理で防ぐことができます。しかし，01年には輸入カキを原因として散在的な集団発生が起こり，全国で159名が発症しています。細菌性赤痢は食中毒や水系感染症の原因としてはよく知られており，近年の発生は少ないですが，ノロウイルス感染症と同様に手指を介して拡大する感染症としての側面もあり，爆発的に感染を広げる可能性があります。食事の前やトイレの後等，こまめな手洗いを心がけましょう。

○京都市情報館ホームページ「手洗いの方法」リーフレット
（ https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000197/197526/tearai.pdf ）

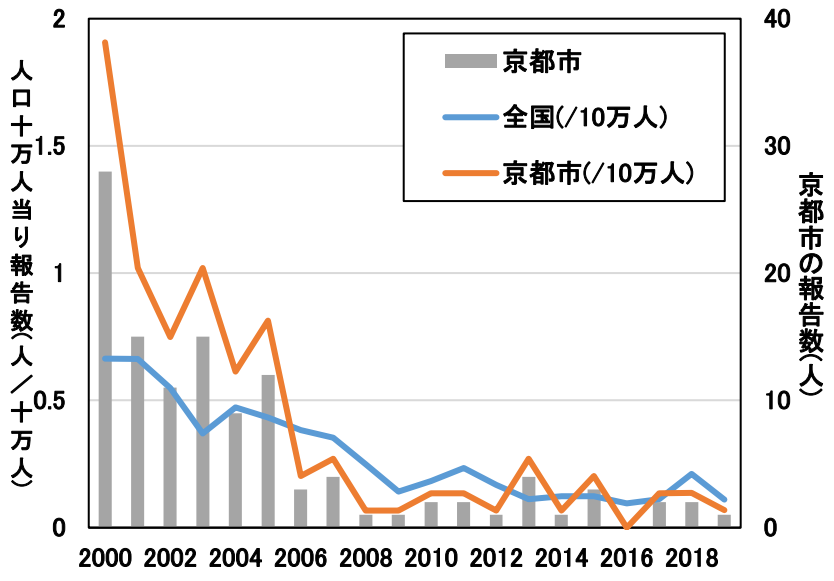


図1．全国と京都市の細菌性赤痢報告数※

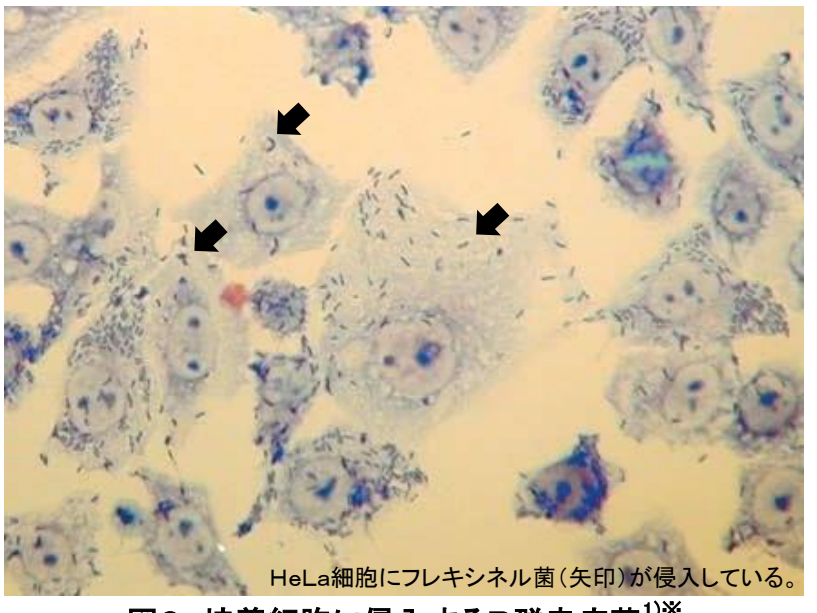


図2．培養細胞に侵入するB群赤痢菌[1)]※

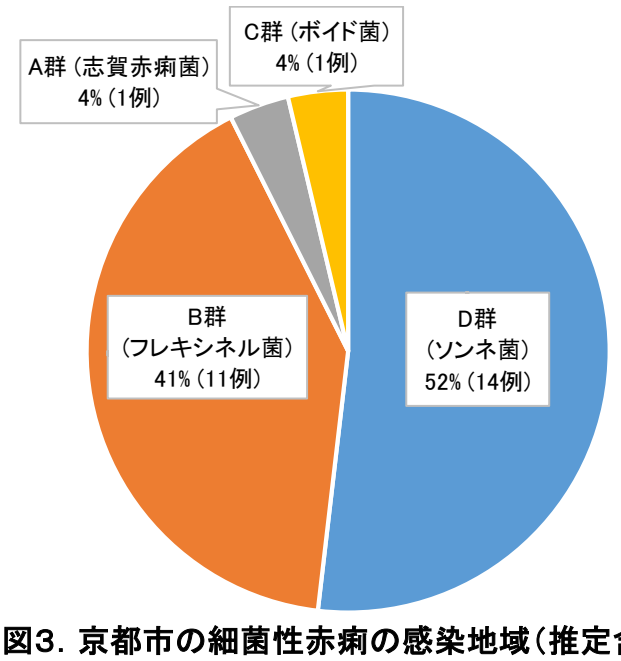


図3．京都市の細菌性赤痢の感染地域（推定含む）※

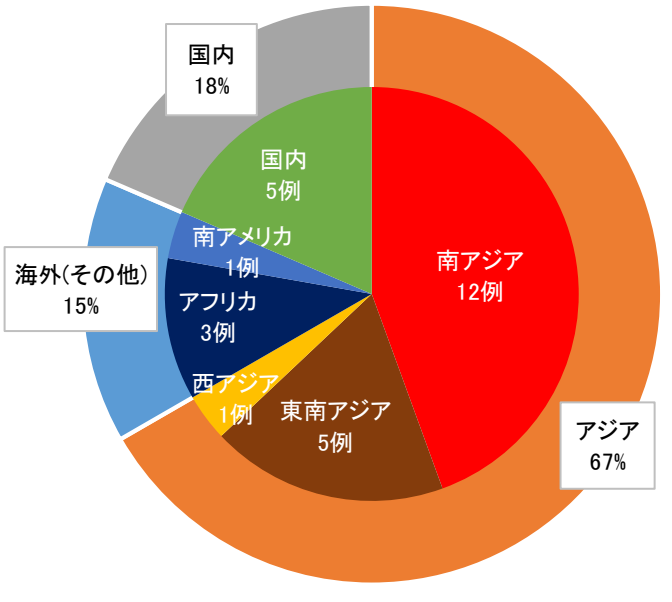


図4．京都市の細菌性赤痢の感染地域（推定含む）※

本文は以下のウェブサイトを参考に作成（以下，全て2020年10月29日閲覧）。
○国立感染症研究所「細菌性赤痢とは」
（ https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/406-dysentery-intro.html ）
○厚生労働省検疫所FORTH「細菌性赤痢」
（ https://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name10.html ）

※…2000年～2019年までの集計結果を示す。
1) 国立感染症研究所「細菌性赤痢とは」より引用
（ https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/406-dysentery-intro.html ）

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第43週

疾病,行政区別報告数　　2020年10月19日～2020年10月25日　　データ入手日:2020年10月28日

男女合計	インフルエンザ（※1）	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
北	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−					
上京	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−					
左京	−	−	−	1	1	−	−	2	3	1	−	−	−					
中京	−	−	−	−	2	1	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−
東山	−	−	−	−	4	−	−	−	1	−	−							
山科	−	−	−	8	4	−	−	−	1	−	−	−	−					
下京	1	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−							
南	−	−	1	−	7	−	−	−	−	1	−							
右京	−	−	4	12	3	1	−	−	1	−	−	−	1					
伏見	−	−	1	4	9	2	−	−	4	1	1	−	−					
西京	−	−	−	1	11	−	−	−	4	−	−	−	−					
京都市計	1	−	6	26	42	4	−	2	14	4	1	−	1	−	−	−	−	−

疾病,行政区別定点当たり報告数

男女合計	インフルエンザ（※1）	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
北	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−					
上京	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−					
左京	−	−	−	0.25	0.25	−	−	0.50	0.75	0.25	−	−	−					
中京	−	−	−	−	0.67	0.33	−	−	−	0.33	−	−	−	−	−	−	−	−
東山	−	−	−	−	2.00	−	−	−	0.50	−	−							
山科	−	−	−	1.60	0.80	−	−	−	0.20	−	−	−	−					
下京	0.33	−	−	−	0.50	−	−	−	−	−	−							
南	−	−	0.33	−	2.33	−	−	−	−	0.33	−							
右京	−	−	0.80	2.40	0.60	0.20	−	−	0.20	−	−	−	1.00					
伏見	−	−	0.14	0.57	1.29	0.29	−	−	0.57	0.14	0.14	−	−					
西京	−	−	−	0.20	2.20	−	−	−	0.80	−	−	−	−					
京都市計	0.01	−	0.14	0.60	0.98	0.09	−	0.05	0.33	0.09	0.02	−	0.10	−	−	−	−	−

※1　インフルエンザは，鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが，新型インフルエンザのうち，A/H1N1については含む。
※2　細菌性髄膜炎は髄膜炎菌，肺炎球菌，インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。
※3　クラミジア肺炎はオウム病を除く。
※4　感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3202

京 都 市 感 染 症 発 生 動 向 調 査 情 報

集計対象:2020年第43週

年齢階級, 疾病別報告数　　2020年10月19日～2020年10月25日　　データ入手日:2020年10月28日

京都市 男女合計	年齢1 年齢2 年齢3 年齢4	総数 総数 総数 総数	～5ケ月 ～5ケ月 ～5ケ月 0歳	～11ケ月 ～11ケ月 ～11ケ月 1歳-	1歳 1歳 1歳 5歳-	2歳 2歳 2歳 10歳-	3歳 3歳 3歳 15歳-	4歳 4歳 4歳 20歳-	5歳 5歳 5歳 25歳-	6歳 6歳 6歳 30歳-	7歳 7歳 7歳 35歳-	8歳 8歳 8歳 40歳-	9歳 9歳 9歳 45歳-	10歳- 10歳- 10歳- 50歳-	15歳- 15歳- 15歳- 55歳-	20歳- 20歳- 20歳以上 60歳-	30歳- 30歳- 65歳-	40歳- 40歳- 70歳以上	50歳- 50歳-	60歳- 60歳-	70歳- 70歳以上	80歳以上
インフルエンザ (※1)	年齢1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－
RSウイルス感染症	年齢3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽 頭 結 膜 熱		6	－	－	4	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		26	－	1	2	1	5	6	2	3	－	－	2	1	－	3						
感染性胃腸炎		42	1	5	4	3	3	3	4	1	1	4	3	7	1	2						
水　　痘		4	－	－	－	－	1	－	1	－	1	－	1	－	－	－						
手 足 口 病		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
伝 染 性 紅 斑		2	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
突発性発しん		14	－	5	7	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		4	－	－	－	3	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		1	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市 男女合計	年齢1 年齢2 年齢3 年齢4	総数 総数 総数 総数	～5ケ月 ～5ケ月 ～5ケ月 0歳	～11ケ月 ～11ケ月 ～11ケ月 1歳-	1歳 1歳 1歳 5歳-	2歳 2歳 2歳 10歳-	3歳 3歳 3歳 15歳-	4歳 4歳 4歳 20歳-	5歳 5歳 5歳 25歳-	6歳 6歳 6歳 30歳-	7歳 7歳 7歳 35歳-	8歳 8歳 8歳 40歳-	9歳 9歳 9歳 45歳-	10歳- 10歳- 10歳- 50歳-	15歳- 15歳- 15歳- 55歳-	20歳- 20歳- 20歳以上 60歳-	30歳- 30歳- 65歳-	40歳- 40歳- 70歳以上	50歳- 50歳-	60歳- 60歳-	70歳- 70歳以上	80歳以上
インフルエンザ (※1)	年齢1	0.01	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.01	－	－	－	－
RSウイルス感染症	年齢3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽 頭 結 膜 熱		0.14	－	－	0.09	0.02	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.60	－	0.02	0.05	0.02	0.12	0.14	0.05	0.07	－	－	0.05	0.02	－	0.07						
感染性胃腸炎		0.98	0.02	0.12	0.09	0.07	0.07	0.07	0.09	0.02	0.02	0.09	0.07	0.16	0.02	0.05						
水　　痘		0.09	－	－	－	－	0.02	－	0.02	－	0.02	－	0.02	－	－	－						
手 足 口 病		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
伝 染 性 紅 斑		0.05	－	－	0.05	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
突発性発しん		0.33	－	0.12	0.16	0.02	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		0.09	－	－	－	0.07	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		0.02	－	－	－	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		0.10	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.10	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

※1　インフルエンザは, 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが, 新型インフルエンザのうち, A/H1N1については含む。
※2　細菌性髄膜炎は髄膜炎菌, 肺炎球菌, インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。
※3　クラミジア肺炎はオウム病を除く。
※4　感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第43週

週，疾病別報告数　　データ入手日:2020年10月28日

京都市　　男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ（※1）	–	–	–	–	–	1
RSウイルス感染症	–	–	–	–	–	–
咽頭結膜熱	8	4	3	5	4	6
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	27	16	32	32	24	26
感染性胃腸炎	64	55	50	46	54	42
水痘	3	8	5	4	12	4
手足口病	1	1	1	–	1	–
伝染性紅斑	–	–	–	–	–	2
突発性発しん	14	9	14	15	19	14
ヘルパンギーナ	6	5	8	7	8	4
流行性耳下腺炎	–	1	–	1	–	1
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–
流行性角結膜炎	1	1	1	–	–	1
細菌性髄膜炎（※2）	–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎（※3）	–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎（※4）	–	–	–	–	–	–
合計	124	100	114	110	122	101

週，疾病別定点当たり報告数

京都市　　男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ（※1）	–	–	–	–	–	0.01
RSウイルス感染症	–	–	–	–	–	–
咽頭結膜熱	0.19	0.09	0.07	0.12	0.09	0.14
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.63	0.37	0.74	0.74	0.56	0.60
感染性胃腸炎	1.49	1.28	1.16	1.07	1.26	0.98
水痘	0.07	0.19	0.12	0.09	0.28	0.09
手足口病	0.02	0.02	0.02	–	0.02	–
伝染性紅斑	–	–	–	–	–	0.05
突発性発しん	0.33	0.21	0.33	0.35	0.44	0.33
ヘルパンギーナ	0.14	0.12	0.19	0.16	0.19	0.09
流行性耳下腺炎	–	0.02	–	0.02	–	0.02
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–
流行性角結膜炎	0.10	0.10	0.10	–	–	0.10
細菌性髄膜炎（※2）	–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎（※3）	–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎（※4）	–	–	–	–	–	–
合計	2.96	2.40	2.73	2.56	2.84	2.42

※1　インフルエンザは，鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが，新型インフルエンザのうち，A/H1N1については含む。

※2　細菌性髄膜炎は髄膜炎菌，肺炎球菌，インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3　クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4　感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。